

# 新築住宅のシロアリ対策に関する 調査レポート2024

ジャパンホームシールド株式会社  
事業開発本部 マーケティング部



**JAPAN  
HOME  
SHIELD**

建てるを支える。  
住まうを想う。

2024年12月

©JAPAN HOME SHIELD CORPORATION  
ALL RIGHTS RESERVED.



# Summary

## 結果の概要

- ▶防蟻対策は「併用」が選ばれている
- ▶防蟻処理の継続案内がなく一定数が蟻害のリスクにさらされている
- ▶住宅会社の2割弱がシロアリ被害を経験している
- ▶住宅会社は防蟻対策の持続性や施工性に課題を感じている
- ▶手間や費用を減らす「長期保証」が求められている

# About

## 調査概要

### ■ 目的

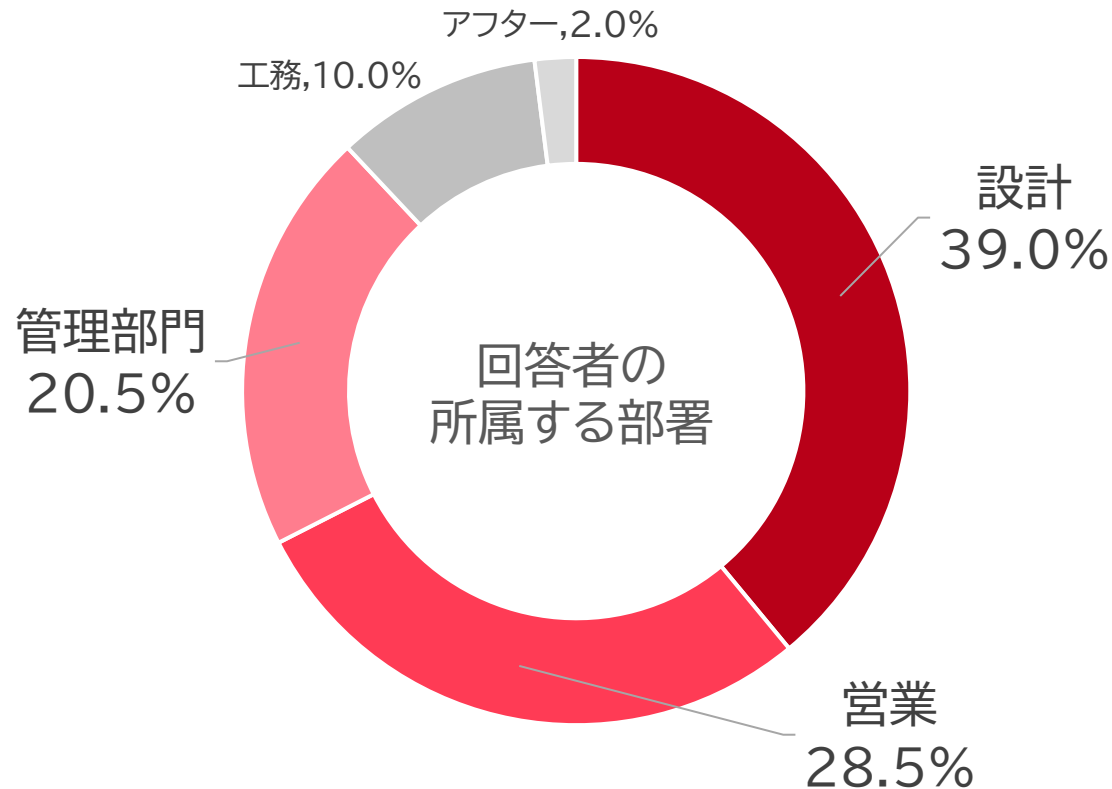
防蟻処理に関して住宅業界の実態を把握し、  
業界の課題解決につなげることを目的に実態調査を実施しました。

### ■ 実施概要

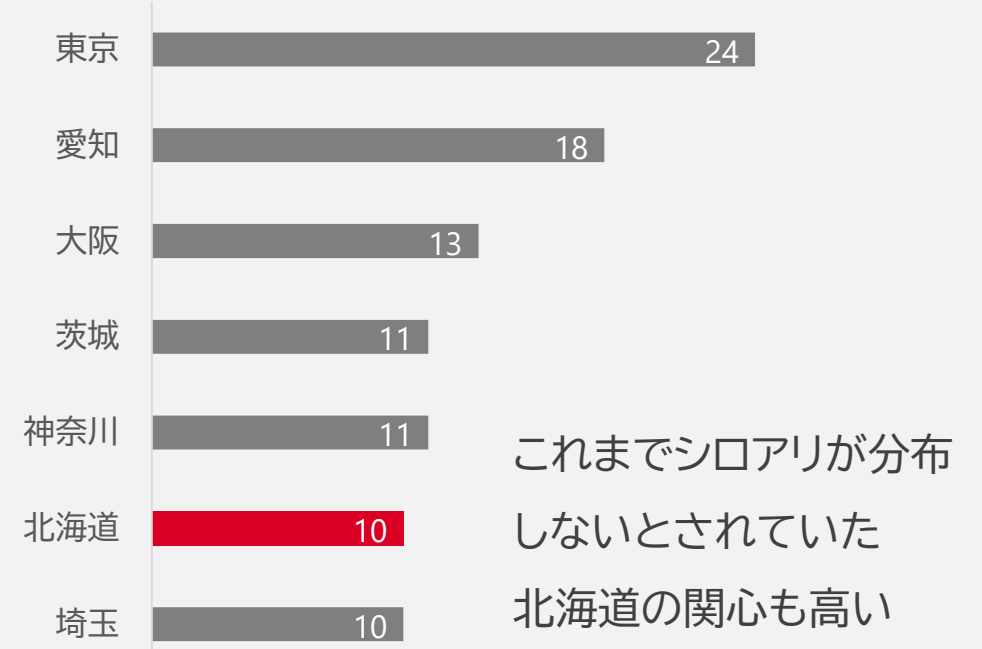
- ・ 実施期間 2024年10月17日(木)～ 24日(木)
- ・ 調査対象 住宅・建築事業者（弊社に名刺登録のあるお客様）
- ・ 回答者 200名
- ・ 調査方法 インターネット

# 回答者の傾向

設計部門・営業部門からの回答が多い  
大都市圏からの回答が多い



## 県別の回答者数（上位）



# 防蟻対策の傾向について

Q. 防蟻対策として木部への薬剤処理を行っていますか  
(吹付・塗布・加圧注入等)

Q. 防蟻対策として木部への薬剤処理以外の方法は行っていますか

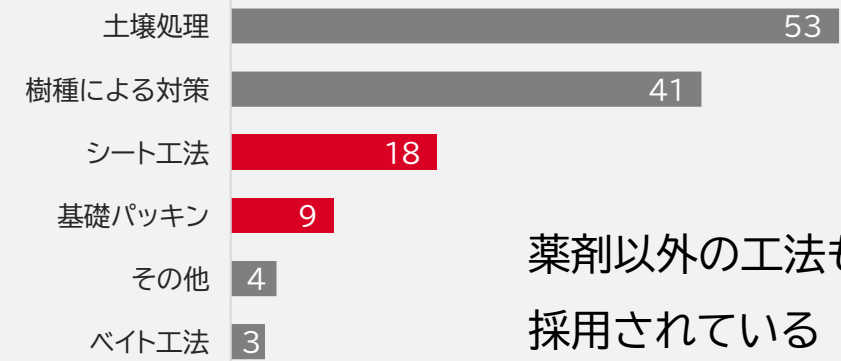
|        |               | 木部薬剤処理以外の方法   |                |
|--------|---------------|---------------|----------------|
|        |               | 行っている<br>計93  | 行っていない<br>計107 |
| 木部薬剤処理 | 行っている<br>計176 | 88<br>(44.0%) | 88<br>(44.0%)  |
|        | 行っていない<br>計24 | 19<br>(9.5%)  | 5<br>(2.5%)    |

数字は回答数・  
N = 200 (複数回答あり)  
単位：件

木材の薬剤処理とそれ以外の対策を併用しているという回答が多く見受けられる。

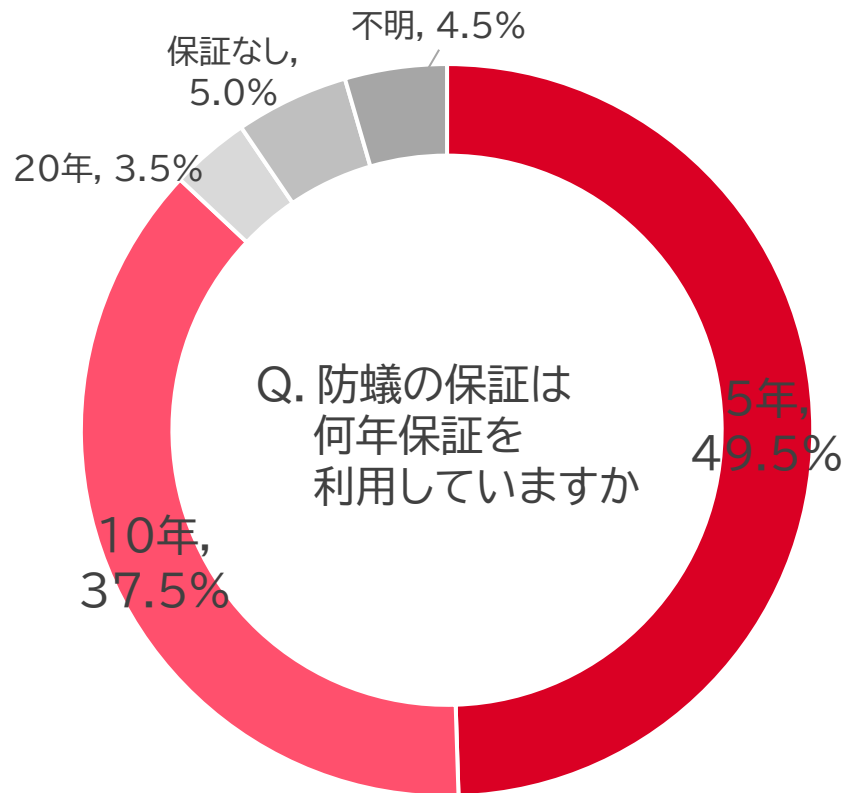
土壌処理・樹種による対策で7割以上。フラット35や性能表示制度、長期優良住宅の普及で耐久性の高い仕様を採用していると考えられる。

## ■ 木部薬剤処理以外の対策（内訳）

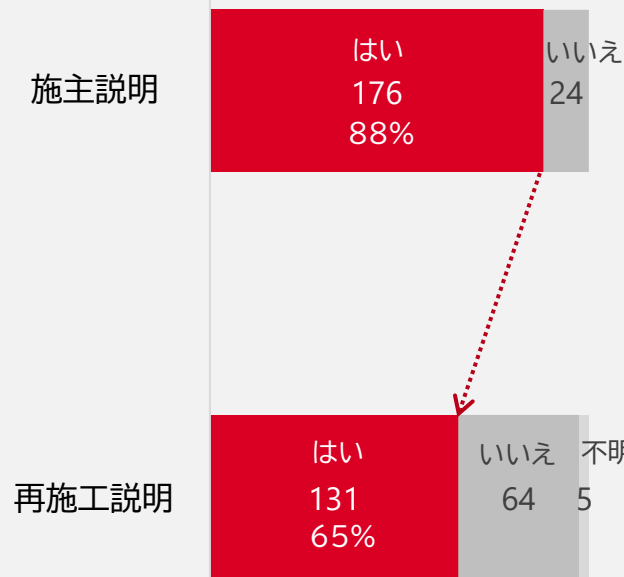


薬剤以外の工法も  
採用されている

# 防蟻保証期間とメンテナンスに関する施主説明の実施状況



Q. 防蟻保証をお施主様へ説明していますか



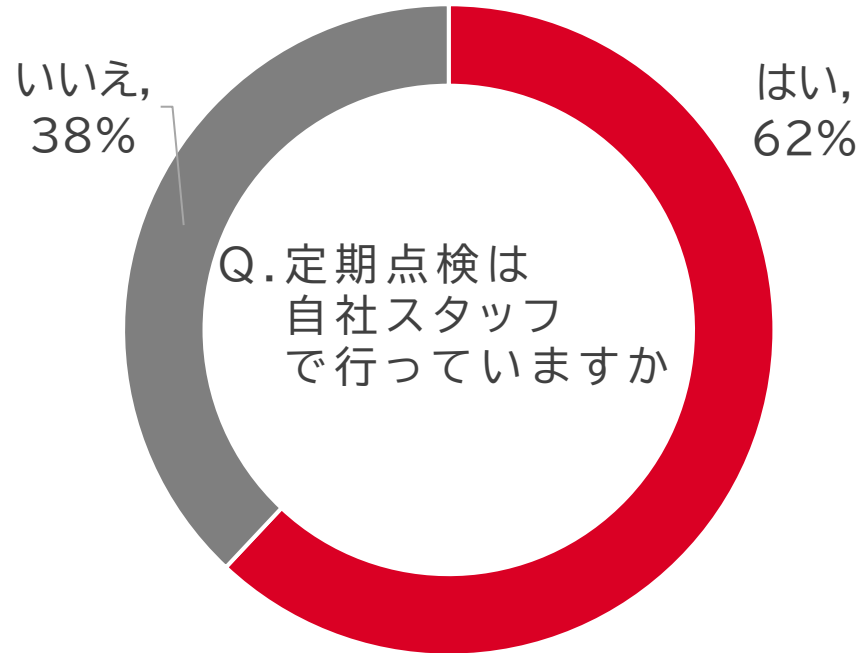
Q. 防蟻の再施工をお施主様へ案内をしていますか N=200

防蟻の保証は5年が最多の回答となった。

引渡時には88%が防蟻保証の説明をしているが再施工が必要な時期には施主へ案内数が65%に減少している。

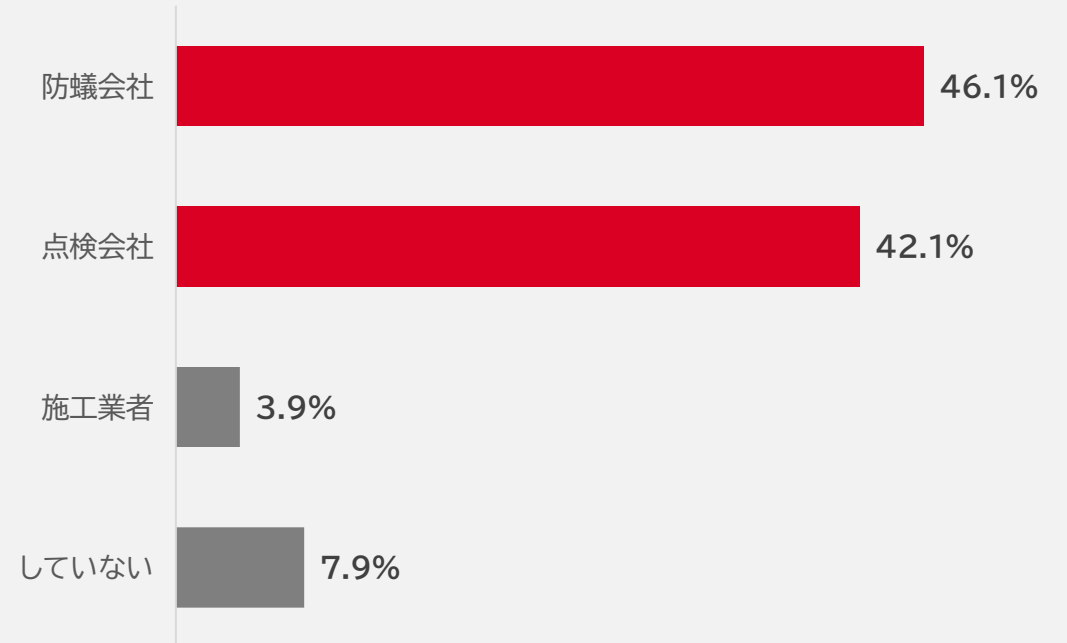
35%の住宅が再施工案内を受けておらず、蟻害のリスクにさらされている可能性がある事がわかった。

# 定期点検の実施状況



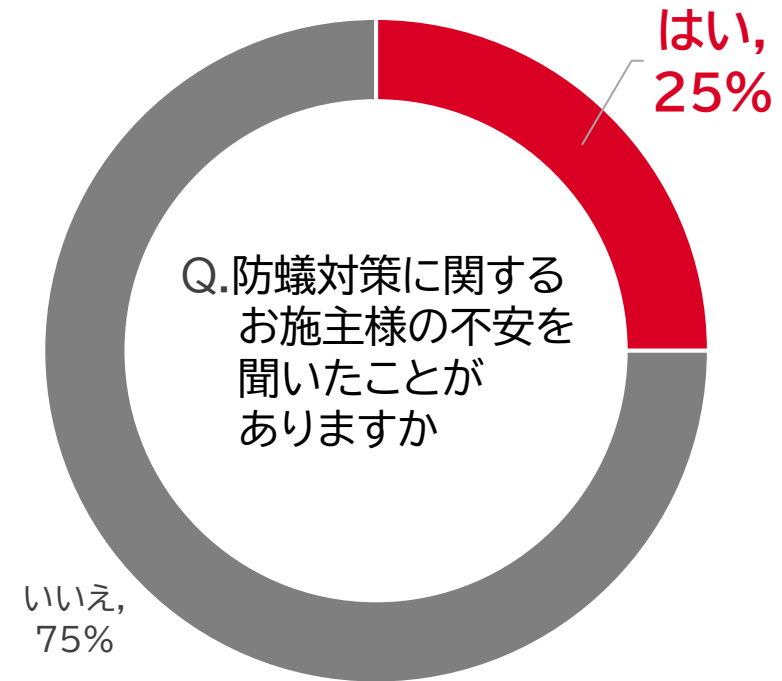
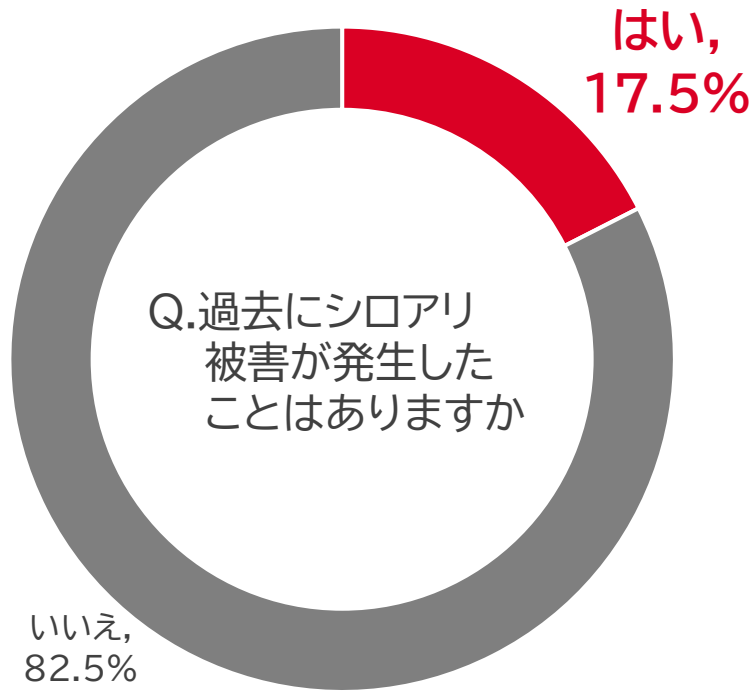
62%が自社で定期点検を実施している。  
施主との接点を持ちリフォーム受注の仕組み作りが  
重要と考えていると想定される。

## Q. 定期点検の外注先はどこですか



防蟻会社・点検専門会社に点検を委託している割合が  
高い。

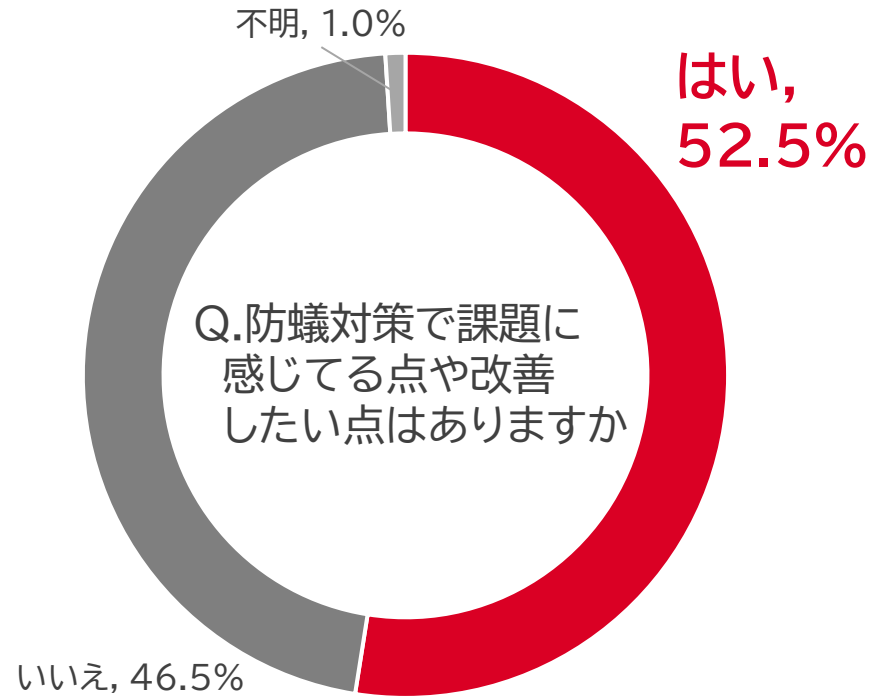
# シロアリ被害の経験とお客様の声



2割弱の住宅事業者がシロアリ被害を経験しており、お施主様の4人に1人は防蟻対策に不安があるという結果となった。



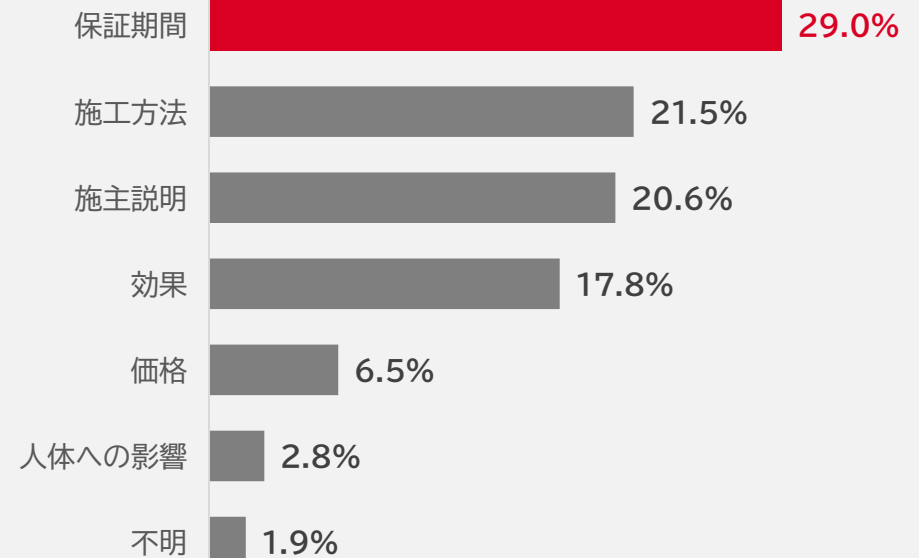
# 防蟻対策の具体的な課題と改善点



過半数の事業者が現状の防蟻対策に  
課題を感じている

保証期間に対し課題と考えている方が1番多い。  
また、防蟻対策の施工方法や、施主説明に苦労してい  
る事がうかがえた。

## ■ 防蟻対策への課題の内訳



N=103

# 防蟻対策の具体的な課題と改善点(回答抜粋①)

## 保証・メンテナンス期間に関すること

- 長期保証(10年、15年、20年など)への要望が多く、保証期間の延長や永年保証への改善。
- 保証更新の際の費用負担や手間が重いと感じている顧客が多く、保証延長工事の無料点検や再施工を対応したい。
- 再防蟻処理のための5年ごとの点検や保証更新が施主に負担と感じられている。
- 点検や再施工がメンテナンスサイクルとして短すぎると感じている。
- 顧客に保証や再施工の説明が行き届いていないため、理解促進の必要性を感じている。
- 長期保証が可能な新技術の導入が必要。

## 防蟻処理の方法と施工に関すること

- 防蟻処理の効果や持続性がわかりにくく、具体的な数値やデータを用いた効果の訴求が必要との声。
- 薬剤処理の効果が5年ごとに再処理を必要とするため、施主の関心が低下し継続が途切れるケース。
- 薬剤を使わない、または人体に害がなく長期的に有効な対策への関心。
- 基礎断熱工法やパッキンからの侵入など特定の構造における対策が不十分であるという懸念。
- 床下に潜れない古い家屋や点検口がないリフォーム物件での防蟻が難しいと感じている。
- 特にアメリカカンザイシロアリなど、新たなシロアリ種への効果がある薬剤や対策が必要。
- ホウ酸を用いた防蟻処理を検討する意見が増えている。

## 防蟻対策の具体的な課題と改善点(回答抜粋②)

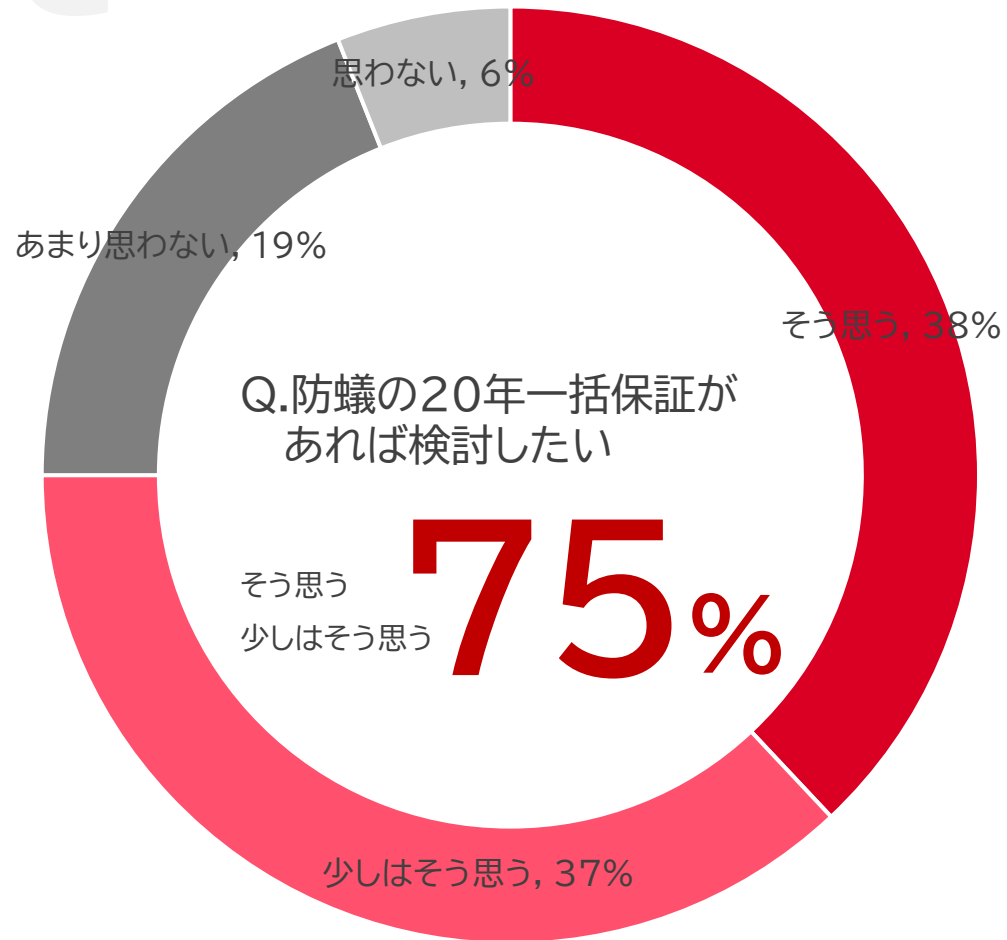
### 顧客の理解・認識不足に関すること

- 顧客がシロアリ被害を軽く考え現時点で問題がなければ防蟻処理を希望しない。
- シロアリ防除が必要な建物やそのタイミングに対する理解が不十分であることに対する懸念。
- 特定のシロアリ(アメリカカンザイシロアリ、ヤマトシロアリなど)への対策に対する知識が不足している。
- 防蟻対策に費用対効果を感じにくいことが課題であり、施主が対策の必要性を理解しづらい。

### 特殊環境やその他の課題

- 台風などの自然災害時に再処理が必要となるケースや、特定の自然環境(山林近く)での防蟻対策が求められている。
- 経験がないために効果が未知であり、経験則に基づいた対策が難しい。

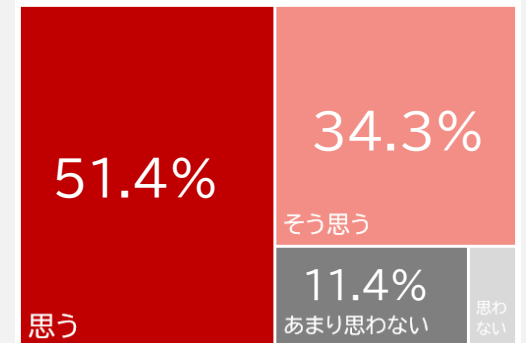
# 防蟻20年保証の要望



防蟻対策の課題として「保証期間」と答えた方が1番多く20年保証を要望する回答も1番多かった。

また、シロアリ被害を経験したことがある方の多くが20年一括保証を検討したいと回答(85.7%)。

シロアリ被害経験者の20年保証の要望



N=35

施主説明や再施工手間の観点からも長期保証は求められている。

# アンケートのまとめ

## シロアリ対策に関する動向

- ・ シロアリ保証について9割がお施主様へ説明している事から重要視されている
- ・ 現在、複数の防蟻対策を「併用」している住宅会社が約5割ある
- ・ シロアリ施工の継続案内が出来ておらず、蟻害のリスクにさらされているお施主様が35%いる
- ・ シロアリ被害を経験している方が17.5%いる
- ・ シロアリ被害を経験している方の65.7%が防蟻対策を「併用」している
- ・ 保証期間5年・10年の保証をかけている方が合わせて約9割いる
- ・ 保証期間20年を検討したいと答えた方が75%いる

## 考察

これからの防蟻対策では、防蟻効果と持続性を高める「**併用**」に加え、中間のメンテナンス費用や手続きの負担を軽減できる「**長期保証**」の両立が求められます。この取り組みにより、住宅全体のライフサイクルコストの削減が実現し、業務負担の軽減や顧客満足度の向上が期待されます。

この方向性は業界全体の防蟻対策の標準化や競争力の強化にも寄与すると考えられます。

建てるを支える。住まうを想う。

